

果試ニュース

第21号 平成16年8月



伊予柑のマルチ栽培

「二時頃は山も汗かく蝉ぢぢと」(星野立子)

四国の遙か南東海域に発生し足摺岬付近に上陸した台風10号は、一部地域で水害の爪あとを残したものの、早魘傾向にあった本県のミカン産地にとっては恵みの雨となった。台風に伴う低気圧の影響もすっかり消え、炎暑が再び戻ってきた。

8月は夏から秋への移行期、ナシやブドウを始め落葉果実の豊富な季節である。好天にも恵まれ、どの果物も味が良い。デフレの緩和や景気も上向き始めており、価格の回復を期待したい。

一方カンキツ産地では、蝉時雨の中、摘果やマルチの被覆など諸管理が続く。健康管理を第一に、山も汗かくような暑さ厳しい時間帯での作業は極力避け、来るべき秋には生産者・消費者が共に喜べるような美味しい果実を、健康で明るい笑顔で収穫したいものである。

今回の果試ニュースでは、新品種「ひめのか」・伊予柑のマルチ栽培・カンキツ幹腐病を取り上げた。「ひめのか」は大津4号の珠心胚実生で、糖度が高く酸抜けが早いことから年末から年明け販売用のみかんとして期待している。伊予柑のマルチ栽培については、品質向上による消費減少の歯止め手段として試験に取り組んだもので、食味が向上する他、果皮障害やス上がりの発生が軽減されるなどの効果がある。また、カンキツの幹腐病については、高知や徳島のユズで大きな問題となっているが、本県では平成12年に肱川町で初めて確認された。ユズ以外にも温州ミカン、ポンカン、スタチでも確認されていることから、注意していただきたい。

場長 世良親臣